

冬季労働災害を防止しましょう！

石巻署管内の転倒災害発生状況

(平成30年から令和4年までの5年間の合計月別件数)

2月に転倒災害が多く発生しています！



(労働者死傷病報告による)

石巻署管内の冬季転倒災害事例

自動二輪で走行していたところ、路面が凍結していたため、スリップして転倒し、足首を捻挫した。

休業
2週間

屋外にある倉庫へ、ゴミ出しをしていたところ、凍結した路面で足を滑らせ転倒し、手首を骨折した。

休業
3か月

駐車場に止めた車に乗ろうとしたところ、凍結した地面に足を滑らせ転倒し、尾てい骨を骨折した。駐車場から事務所間、屋外の移動時の転倒が多発しています！

休業
1か月

冬季における転倒防止対策について

冬季は、積雪や路面の凍結などにより転倒災害が多く発生する傾向があります。次の4つに留意して転倒災害を防ぎましょう。(取り組んだところは ☐ にCheck!しましょう)

☐ 天気予報に気を配る

寒波が予想される場合などには、労働者に周知し早めに対策をとりましょう。

☐ 時間に余裕をもって歩行、作業を行う

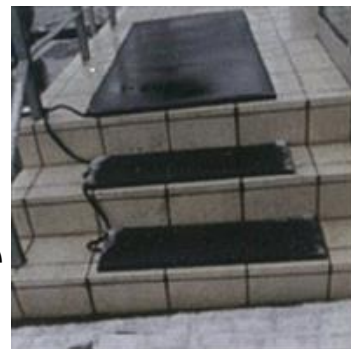
悪天候による交通機関の遅れが見込まれる場合は、時間に余裕をもって出発するとともに、落ち着いて作業を行うように心がけましょう。屋外では、小さな歩幅で靴の裏全体を地面に付けて歩くようにしましょう。防滑シューズも有効です。

☐ 駐車場の除雪・融雪は万全に、出入口などにも注意する

駐車場内や、駐車場から職場までの通路は、除雪や融雪剤の散布を行いましょう。また、出入口には転倒防止用マットを敷き、照明設備を設けて夜間の照度を確保しましょう。

☐ 職場の危険マップ、適切な履物、歩行方法などの教育を行う

職場内で労働者が転倒の危険を感じた場所の情報を収集し、危険マップなどにより労働者への注意喚起を行いましょう。また、作業に適した履物の着用や、雪道や凍結した路面での歩き方を教育しましょう。



〈ヒートマット設置例〉



冬季労働災害は転倒災害だけではありません！

冬季は、積雪や路面の凍結などによる転倒災害のほか、通勤時や就業時の交通労働災害も多く発生しています。今冬は暖冬傾向となっていますが、**急な天候の変化**により、**積雪**や気温の低下による**凍結**などが発生する可能性もありますので、油断せずに対策を講じましょう。

交通労働災害防止対策

- ・他車両からの視認性向上のため、早朝、夕方は**早めの点灯**を励行しましょう。
- ・積雪や路面凍結などについて、交通安全情報マップなどを活用し、情報提供を行うとともに、「急ハンドル」「急ブレーキ」など急の付く動作や、スピードの出し過ぎに対して注意喚起しましょう。

ウォーミングアップ

冬季は寒さで身体がこわばって固くなる傾向にあります。作業開始前に、準備体操やストレッチ体操を行い、体を十分にほぐしてから作業に着手しましょう。

厚生労働省では、転倒・腰痛予防防止対策として「**いきいき健康体操**」を公表しています。ウォーミングアップなどにぜひ活用してください。

〈～転倒・腰痛予防！「いきいき健康体操」～（動画）他〉



〈交通安全情報マップ例〉

不安全行動について

労働災害の発生状況を見ると、手間や労力、時間やコストを省くことを優先し、つい「これくらいは大丈夫だろう」、「長年経験しているから大丈夫」など慣れや過信から、「**あるべき姿**」を逸脱する安易な行動がとられた結果、重篤な災害が発生するケースが少なくありません。特に年末年始は慌ただしくなりますので、一つ一つの行動が「**あるべき姿**」となっているか今一度確認しましょう。また、伝達不足による労働災害も発生していますので、**報告・連絡・相談**（略して「**報・連・相**」）を通じて日頃からコミュニケーションを図りましょう。

転倒防止に役立つ靴と保護具を活用しましょう

靴選びの3つのポイント

防滑性：靴底がすべりにくいこと

撥水性・防水性：水分が靴の中に入り込まないこと

保温性：靴の中を温かく保てること

このほかにも、靴の重量やバランス・屈曲性・つま先の高さもポイントになります。

このほか、足のサイズに合った靴を選ぶことも重要です。

サイズが小さい靴：足指が自由に動かしにくく、バランスを崩したときの踏ん張りがきかなくなる。

サイズが大きな靴：歩行の度に足が前後斜めに動いて、靴のつま先やかかとが足の動きに追従できなくなる。



柔らかいゴムを使った靴底は、路面に対する密着性が強いいため滑りにくくなっています。

『職場のあんぜんサイト』を安全管理にぜひご利用ください。

職場のあんぜんサイト

検索

